

第2回 政治を語るつどい

講師 講演



伊藤 千尋さん

ジャーナリスト・朝日新聞記者

山口県生まれ。1974年入社。サンパウロ支局長、パルセロナ支局長、ロサンゼルス支局長、アエラ編集部などを経て現職。主な著書に「反米大陸」「活憲の時代」ほか『新聞「ハンギョレ」の12年』など。各地で原発・憲法問題で精力的に講演。

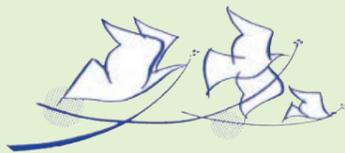
2月21日(木)

午後7時開会

さんくすホール

JR吹田駅すぐ さんくす1番館4階

資料代：500円



主催：吹田革新懇再開準備会 事務局 吹田市職員労働組合 電話06-6386-4428 F A X06-6386-4434

社会を変えるのは私たち

憲法を活かして原発も基地もなくそう



とうとう梅田貨物駅が吹田にやってくる。すでに「吹田貨物ターミナル駅」の駅舎は完成している。そしてコンテナも運び込まれつつある。トラックの排ガスが心配だ。

どうも箕面市に移転されそうな国立循環器病センター。現地、藤白台で建て替えても良かったのでは？



現在、学研都市線の放出と大和路線の久宝寺を結ぶ「おおさか東線」が、新大阪駅まで延長される。南吹田地区には、待望の「仮称西吹田駅が開業することになる。



「吹田貨物ターミナル駅」にアクセスするトラック専用道路が建設中だ。これは吹田第六小学校の南側から地下トンネルにもぐり込む「専用道路」。



千里山駅をまたぐ、跨線橋。これで西と東がつながって便利にはなるが、都市の景観、交通量の増加など、心配な点も多い。跨線橋が開通すると、千里山の踏切道は、歩行者専用になるそうだ。



変わりゆく吹田カメラ点描



高架工事が進む阪急淡路駅。近鉄線の布施駅のような形状になる。駅舎は4階建てで、2階に改札、3階は上り線(梅田、天六方面)が入り、4階に下り線(河原町、北千里方面)が入る。2018年度(平成29)に高架駅としてリニューアルされる予定。



北千里小学校の存続を求める声も強かったが、結局、小学校は廃校に。跡地はどうなるのだろうか？

相変わらず、吹田の町を歩けば、あちこちこつちも工事だらけだ。JRの「おおさか東線」延伸工事や、阪急の淡路駅高架工事など、市民の利便性が高まる工事は大歓迎だが、吹田操車場跡地に貨物ターミナル駅ができて、1日千台ものトラックが通る予定の「貨物専用道路工事」を見ると、複雑な心境になる。今回は、そんな「変わりゆく吹田」を点描してみた。

フォーカス focus

吹田市が環境省の補助金を活用した工事を井上市長の後援企業に

随意契約で発注していた疑惑問題。1月17日発表された吹田市役所ガバナンス推進委員会の調査報告書は、「直ちに不当とまでは言えない」、「特に問題となる点はない」とした。自信たっぷりの断言だが、その理由は苦しい。今回の随意契約は、吹田市が定めた発注要領の基準に「該当する」とはいえないという。しかし、この要領が今回の随意契約を「除外する趣旨か否かは必ずしも明らかではなく、許されるという「解釈の余地がないわけではない」ので、不当でないとする。また、市長の後援企業と単独随意契約を締結した点も、「特段これを禁止する規定はなく」特に問題なしとする。

ルール違反だとわかっていて、いやいや反則じゃない解釈の余地があると言っている。ルールに書いていないから吹田市は何をやってもいい、とまで。

一方で、「財政規律の確立」を目標に、「国や大阪府の制度と整合性を欠く」として、子育て支援策など市独自の施策を例外なく厳格に切り捨てにかかっている井上市長。市民には尊大・横柄だが、自らには優しく、国にはへっぴり腰、彼の言う「行政の維新」の実像を如実に示している。

今回の調査報告書は、そんな「行政の維新」が市政全体に深刻な歪みをもたらしていることを明らかにしている。

(トモはる)